

お詫びと訂正

このたび、会員の皆さまにお送りした、「え〜ごがく No.83」の2ページ目において、秋大会のシンポジウム C 室にご登壇予定の山村ひろみ先生のお名前が間違っ
て掲載されておりました。関係者の皆様にご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。なお、学会 HP に掲載のものは、すでに修正されております。



2025年 9 月20日 発行



今回の紙面から（内容とページ）

会長就任にあたって	1
第43回大会のお知らせ	2
第19回国際春季フォーラムのご案内	4
終身会員の登録申請について	4
理事会より	4
編集委員会より	5
大会運営委員会より	6
広報委員会より	6
学会賞委員会より	7
日本英語学会2024年度会計報告	7
日本英語学会2025年度予算計画	8
言語系学会連合について	10
人文社会科学系学協会における男女共同	
参画推進連絡会（GEAHSS）について	10
事務局より	10

会長就任にあたって

渡辺 明

本年4月より2年間会長職を務めることとなりました。昨年副会長として1年間の見習い期間があったわけですが、喫緊の課題というものは常に存在しているもので、西岡宣明前会長から引き継いで着実に対応してまいりたいと思います。さいわい、副会長としてサポートしてくださる西岡先生にはこの1年間ご助言をお願いすることができますので、心強い限りです。事務局も、事務局長の葛西宏信氏以下あらたな体制となりました。会長ともどもまだ不慣れなところもありますが、少しでも前へ進んでいけるよう、努力していく所存です。

さて、その喫緊の課題の一つは、公的研究資金による研究成果を査読付きの学術論文として出版する際に即時オープンアクセスとすることが義務付けられることへの対応です。これは本年度以降に新規公募となる競争的研究費による成果が対象となるわけですが、われわれの機関誌 *English*

Linguistics 掲載の論文にも当てはまることから、何らかの対応が必要となります。7月の理事会では、希望者に対し、些少の論文発表料をいただいで、即時オープンアクセスとする方向で検討することといたしました。アメリカ言語学会の機関誌 *Language* などで採用されている方式ですが、今年度中に関連規定において明文化することを目指しています。最終的な形が決まりましたら、また、お伝えいたします。

もう一つの課題は、学会賞に関わるものです。日本英語学会賞には著書部門と論文部門がありますが、論文部門は新人賞とあわせ、ここ数年受賞者のない状態が続いています。学会賞の論文部門と新人賞は、*EL* 論文賞受賞者のみが応募資格を有し、その *EL* 論文賞に受賞者が出ていないことが根本原因です。この点は前号のニューズレターで西岡先生がすでに述べておられるところです。*EL* 論文賞は、もともと *EL* 研究奨励賞としてスタートしたものが2014年に改称されて現在にいたっているわけですが、その奨励賞の意味合いが改称とともにうすれてきていることが受賞者の出にくくなっている原因ではないか、と推測されます。そこで、本年度は、審査手順に昨年度の理事会での確認を反映させて、*EL* 論文賞がその年度の *EL* 掲載論文中最優秀のものに与えられるようになることを目指しています。

以上2点はいずれも *English Linguistics* 関連ですが、学会機関誌がより魅力的な研究発表媒体として機能することが学会自体の活性化につながりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。つまり、意欲的な論文を奮ってご投稿ください、というわけです。

本年度の第18回国際春季フォーラム（SF18）は5月17日・18日に成城大学で開催されました。昨年度の京都大学での開催に引き続き、応募件数・発表件数ともに多めで、今後もこの傾向が継続することを願ってやみません。初日は雨に見舞われましたが、磯野達也先生をはじめとする開催校の先生方や実行委員長の縄田裕幸先生ならびに大会運営委員の先生方、前事務局のみなさまの周到な

準備でもって無事終えることができました。懇親会も昨年度とほぼ同数の参加者を得て、盛況でした。その際の伊藤たかね先生のスピーチで、国際春季フォーラム開始当初存在していたその意義に対する懐疑的な見方など、現在に至る実績に照らすと見当違いであったことが判明したという趣旨のお話をされていたのが印象的でした。秋の第43回大会は九州大学にて11月8日・9日開催の予定となっており、準備が着々と進んでいます。研究発表の数は昨年度よりやや多くなっており、喜ばしいことです。みなさまのお越しをお待ち申し上げます。

1983年に設立された日本英語学会は40周年を超え、半世紀の歴史を刻もうとしています。その中のたった2年間ではありますが、責任を持って次代へバトンをつないでいきたいと思っています。直面する課題は、先に述べたものの他にも財政問題があり、こちらについても、みなさまのお知恵を借りながら取り組んでいきたいと考える次第です。ご支援よろしくお願いいたします。

第43回大会のお知らせ

今秋の大会は九州大学伊都キャンパス（福岡市西区元岡744）にて2025年11月8日（土）・9日（日）に開催されます。今年度は、2件のワークショップ、23件の研究発表、3件の特別講演と3件のシンポジウム（うち1件の公開特別シンポジウム含む）が予定されています。なお、公開特別シンポジウムは対面・ZoomのHybrid形式で開催する予定です。

特別講演（11月9日午後）の講師と題目は以下の通りです。

- ・井上 逸兵
「言語学と社会・言語学とメディア」
- ・住吉 誠
「直観判断と英語の実態の齟齬を考える—実証的英語語法研究の立場から—」
- ・窪田 晴夫
「一般言語学から見た英語と日本語」

シンポジウム（11月8日午後）の内容は以下の通りです。（〔 〕内は司会者、（ ）内には講師と題目を記載しています。）

- A. 「いま、例文を見つめ直す：実りある対話を目指して」〔野中 大輔〕（梅谷 博之「フィールド言語学における例文の役割」、平沢 慎也「認知文法と例文：Langacker への（潜在的）誤解を考える」、大名 力「コーパスに基づく定量データの信頼性と解釈の妥当性について」、岩田 祐子「発話の意味はコンテキストで決まる：談話研究の面白さと難しさ」）〔※言語系学会連合との共催による公開特別シンポジウム〕
- B. 「生成文法と代数的言語学の新展開」〔福井 直樹〕（福井 直樹「生成文法と代数的言語学」、上野 優太郎「探索の数理」、梅島 奎立「数理的言語モデルの生物学的妥当性」）
- C. 「TAM の万華鏡—他の西欧言語から見た英語の時制（Tense）・相（Aspect）・モダリティ（Modality）—」〔和田 尚明〕（和田 尚明「Be Going To・Aller・Gaan—英仏蘭語のGO未来の対照研究—」、渡邊 淳也「フランス語の現在形の特徴—英語との比較—」、山村ひろみ「スペイン語の進行形の特徴—英語との比較—」）

ワークショップ（11月8日午前）の内容は以下の通りです。

- A. 項の具現化と言語理論：様態・結果の相補性仮説のその先へ（発表者決定済み）
企画者：白杵 岳
- B. 節性の観点から見る周縁部の構造と節領域について：極小主義プログラムの30年をめぐって（発表者決定済み）
企画者：宗像 孝

本大会の詳しいスケジュールとプログラムについては、10月下旬に学会ウェブサイト（<https://elsj.jp/meeting/>）に掲載予定の「大会資料・プログラム」、「発表要旨」ならびに「ワークショップ・プログラム」をご覧ください。

◇ 大会の受付について

第43回大会への参加を希望される方は、オンラインで事前登録をしていただく予定です。事前登録及び大会参加費のお支払いに関する詳細は、9月中旬ごろ、学会ウェブサイトに掲載予定の「第43回大会 オンライン参加登録について」をご覧ください。

ださい。

大会参加にあたって必要なハンドアウトや、Hybrid開催する総会のZoom情報（URL、ID、パスコード）を記載したファイルは、パスワードをかけ、開催日1週間前を目途に学会ウェブサイトにアップする予定です。このファイルを開くためのパスワードに関する詳細は、同じく学会ウェブサイト掲載予定の「第43回大会 オンライン参加登録について」をご覧ください。

公開特別シンポジウムにオンラインで参加される方は、開催日1週間前を目途に、学会ウェブサイトにZoom情報やハンドアウト等を掲載する予定です。詳しくは学会ウェブサイトをご覧ください。

大会当日は受付にて名札をお渡しします。名札をつけていない方は入室できませんのでご注意ください。ただし8日(土) 午前のワークショップと8日(土) 午後の公開特別シンポジウムは、参加費と名札なしで入室できます。8日(土)は11時30分から、9日(日)は9時から受付を始めます。

◇ 学内食堂・売店の利用時間について

8日(土)・9日(日)の両日とも、学会会場の九州大学イーストゾーンでは生協食堂は営業しておらず、売店の営業のみです。昼食をご持参いただくよう、ご協力をお願いいたします。その他の情報につきましては、大会資料・プログラムに掲載の「キャンパス案内」および「ご飲食施設・コンビニのご案内」をご覧ください。

◇ 宿泊先について

大会と同日に大型イベントが福岡で開催されるため、参加予定の方は早めの宿泊施設のご予約をお願いいたします。

◇ 総会について

8日(土)の12時より12時50分まで総会を対面・ZoomのHybrid形式で開催します。総会では、会長の挨拶、開催校代表のご挨拶、大会運営委員会、編集委員会、広報委員会、学会賞委員会、事務局からの報告ならびに授賞式などがあります。会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

◇ 懇親会について

今年度は8日(土)の18時より20時まで、九州大

学食堂のビッグスカイにて懇親会を開催いたします。懇親会の受付・懇親会費のお支払いは、当日、大会受付で行います。

◇ 大会優秀発表賞について

2015年11月開催の第33回大会より、大会優秀発表賞の審査が行われています。これは事前に審査希望を申請した研究発表を審査して表彰するものです。大会終了後に審査結果をまとめ、ウェブサイトおよびニューズレターで受賞者を発表します。

◇ 証明書等の発行について

大会参加に伴い、所属機関に提出する証明書等が必要な方は、大会当日、受付にお申し出ください。

◇ 「親と子の部屋」について

今年も大会会場近くに「親と子の部屋」という保育室を設けます。専門の保育士が待機しておりますので、安心してご利用いただけます。利用ご希望の方は学会ウェブサイトをご覧のうえ、担当の大会運営委員と事務局までご連絡ください。

◇ 第43回大会の発表ハンドアウト等について

大会参加にあたって必要なハンドアウトや、Hybrid開催する総会のZoom情報（URL、ID、パスコード）を記載したファイルは、パスワードをかけ、開催日1週間前を目途に学会ウェブサイトにアップする予定です。このファイルを開くためのパスワードに関する詳細は、同じく学会ウェブサイト掲載予定の「第43回大会 オンライン参加登録について」をご覧ください。

公開特別シンポジウムにオンラインで参加される方は、開催日1週間前を目途に、学会ウェブサイトにZoom情報やハンドアウト等を掲載する予定です。詳しくは学会ウェブサイトをご覧ください。

また、大会当日の会場にはハンドアウトをご用意していませんので、ハンドアウト等は事前にダウンロードの上、各自ご準備ください。

なお、データ保護の観点から、掲載期間が終わるとハンドアウトは学会ウェブサイトから削除されますので、お手元に残したい場合は、必ず掲載期間内にダウンロードしていただきますよう、お願いします。

第19回国際春季フォーラムのご案内

第19回国際春季フォーラムは次の通り開催される予定です。

2026年5月23日(土)・24日(日)
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
島根大学松江キャンパス

また、第15回国際春季フォーラムより発表応募についてはEasyChairを導入しております。この変更に伴い、第19回国際春季フォーラムへの研究発表とワークショップの応募についても、応募者自身がEasyChairに登録する必要があります。詳しい応募方法につきましては、同封の案内、または、学会ウェブサイト (https://elsj.jp/sf_top/) をご覧ください。

終身会員の登録申請について

2017年度より、終身会員の登録申請を受け付けています。終身会員は、満56歳になった年度から10年間、会費を全納した会員を有資格者とし、所定の申請書を提出し、終身会費3万円を支払うことで認められます。終身会員の方には、EL、ニューズレターなどが送付されるほか、秋の大会および国際春季フォーラムの懇親会に無料で参加いただけます。終身会員に関する規定等については、学会ウェブサイトのトップページの「入会申し込み」から「終身会員登録手続きについて」という項目をご覧ください。登録申し込みは、4月1日から4月25日です。

理事会より

◇ 会計

2025年7月6日に開催されました第90回理事会において、日本英語学会2024年度収支決算書と2025年度予算計画書が承認されました。

収支決算および予算計画の内容については、このニューズレター7ページから9ページに掲載されておりますのでご覧ください。

◇ 役員の異動

会長（退任）

西岡宣明氏が2025年3月31日付けで退任されました。

副会長（退任）

渡辺明氏が2025年3月31日付けで退任されました。

評議員（退任）

石居康男氏、岩部浩三氏、岡田禎之氏、小野尚之氏、加賀信広氏、田中俊也氏、寺尾康氏、松本マスマ氏、家口美智子氏、渡辺雅仁氏、渡辺良彦氏、以上11名の方が2025年3月31日付けで退任されました。

広報委員長（退任）

葛西宏信氏が2025年3月31日付けで退任されました。

大会運営委員長（退任）

杉村美奈氏が2024年12月15日付けで退任されました。

学会賞委員長（退任）

岸本秀樹氏が2025年3月31日付けで退任されました。

事務局長（退任）

前田雅子氏が2025年3月31日付けで退任されました。

大会運営委員会担当書記（退任）

大塚知昇氏が2025年3月31日付けで退任されました。

評議員会・広報委員会担当書記・事務局長補佐・言語系学会連合担当書記補佐（退任）

勝愼将氏が2025年3月31日付けで退任されました。

理事会・国際春季フォーラム担当書記（退任）

萱嶋崇氏が2025年3月31日付け（理事会担当書記）・2025年5月31日付け（国際春季フォーラム担当書記）で退任されました。

財務・学会賞委員会担当書記（退任）

黒木隆善氏が2025年3月31日付けで退任されました。

言語系学会連合担当書記（退任）

田中公介氏が2025年3月31日付けで退任されました。

ご退任の皆さま、これまで日本英語学会の運営にご尽力いただきましたことに対し、厚くお礼申

し上げます。

会長（就任）

渡辺明氏が2025年4月1日付けで就任されました。

副会長（就任）

西岡宣明氏が2025年4月1日付けで就任されました。

評議員（就任）

上田由紀子氏、臼杵岳氏、大津隆広氏、金谷優氏、川原功司氏、榎原和生氏、住吉誠氏、團迫雅彦氏、寺田寛氏、藤巻一真氏、前田雅子氏、三上傑氏、以上12名の方が2025年4月1日付けで就任されました。

広報委員長（就任）

江頭浩樹氏が2025年4月1日付けで就任されました。

大会運営委員長（就任）

三上傑氏が2024年12月15日付けで就任されました。

学会賞委員長（就任）

早瀬尚子氏が2025年4月1日付けで就任されました。

事務局長（就任）

葛西宏信氏が2025年4月1日付けで就任されました。

大会運営委員会担当書記（就任）

猪熊作巳氏が2025年4月1日付けで就任されました。

評議員会担当書記・事務局長補佐（就任）

加藤孝臣氏が2025年4月1日付けで就任されました。

広報委員会・国際春季フォーラム担当書記（就任）

三山美緒子氏が2025年4月1日付けで就任されました。

財務・理事会担当書記（就任）

菅原彩加氏が2025年4月1日付けで就任されました。

編集委員会担当書記（就任）

中尾千鶴氏が2025年4月1日付けで就任されました。

編集委員会担当書記（就任）

稲田俊一郎氏が2025年4月1日付けで就任されました。

学会賞委員会担当書記（就任）

塩原佳世乃氏が2025年4月1日付けで就任されました。

◇ 会員数の変動について

現在の会員数は1124名（6月21日現在）です。内訳は、学生会員26名、通常会員891名（海外会員10名を含む）、維持会員108名、終身会員84名（顧問9名を含む）、賛助会員15団体です。

編集委員会より

◇ *English Linguistics* 第41巻（2025年）の刊行について

EL 第41巻は2025年3月に刊行されました。Invited Article 2編、Article 2編、Notes and Discussion 1編、Review 1編が掲載されています。会員の皆様には刊行が遅れましたことをお詫び申し上げます。

◇ *English Linguistics* 第42巻（2026年）の応募論文について

2025年4月1日締め切りで投稿された一般論文の総数は16編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、AR 12編（syntax 6, morphology/lexicology/syntax/descriptive grammar 1, cognitive linguistics 1, pragmatics/discourse analysis/descriptive grammar 1, syntax/formal semantics/lexical semantics 1, syntax/descriptive grammar 1, 記載なし1）、ND 4編（syntax 1, syntax/formal semantics 1, morphology/lexicology/lexical semantics/linguistic typology 1, syntax/linguistic typology 1）でした。

以下の表は、*EL* 第42巻のArticle 12編とNotes and Discussion 4編の審査状況です（2025年7月20日現在）。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	12	0	5	1	6
N&D	4	0	1	0	3
合計	16	0	6	1	9

◇ *English Linguistics* 第43巻（2027年春発行）への投稿について

2027年3月発行予定の*EL* 第43巻への応募はEditorial Managerにより随時受け付けておりま

す。なお、応募締め切りは、2026年4月1日24時を予定しております。応募される方は、学会 HP にて投稿規定および書式に関する注意事項をご確認いただき、ネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

◇ 2024年度 *EL* 論文賞について

2024年度 *EL* 論文賞について、*EL* 第41巻に掲載された AR 論文 2 編に対して分野別一次審査が行われました。審査対象となった論文の分野は Syntax 2 編です。総合的に審査した結果、2024年度は 1 次審査通過論文なしとなりました。

◇ preprint の公開について

EL への投稿原稿 (preprint) を個人のウェブサイト等に掲載することに関してガイドラインが定められています。詳しい内容については、学会ウェブサイトをご覧ください。

大会運営委員会より

◇ 第43回大会個人研究発表への応募の審査結果

個人研究発表には37件の応募があり、審査の結果24件が採用されました（うち採択後の辞退1件）。

◇ *JELS* 投稿規定の改定について

JELS の電子化に伴い *JELS* 41より投稿規定を改定しましたが、研究成果の更なる情報公開促進のため、*JELS* 43より特別講演、シンポジウム・リポートを5ページ以内から8ページ以内へと変更しました。詳しくは、学会ウェブサイトの「*JELS* 投稿規定」をご覧ください。

◇ 第18回国際春季フォーラム報告

日本英語学会第18回国際春季フォーラムは2025年5月17日・18日に成城大学にて開催されました。今年度のフォーラムでは、国内からの3名の研究者による招待講演、15件の研究発表および4件のポスター発表が行われました。全体で117名の参加者があり、活発な議論が展開されました。今後、さらに国際的なフォーラムとして飛躍・発展することが期待されます。フォーラムの運営を支えてくださった開催校である成城大学の磯野達也先生、井上徹先生、水澤祐美子先生、また、縄田

裕幸実行委員長と安原正貴実行副委員長をはじめとした大会運営委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心より御礼申し上げます。

◇ 国際春季フォーラム優秀発表賞審査結果報告

第9回国際春季フォーラムより、国際春季フォーラム優秀発表賞の審査が行われています。事前に審査希望を申請した研究発表を対象とし、応募アブストラクトの査読点による一次審査およびフォーラム当日の発表に対する二次審査により受賞が決定されます。第18回国際春季フォーラム優秀発表賞の審査の結果が6月に開催された大会運営委員会で審議され、Takashi Ishida（石田崇）氏・Akiko Nagano（長野明子）氏の研究発表“Further Evidence of the Multifunctionality of *-ed* and Its Non-morphomic Explanation”に優秀発表賞を、Gen Kasai（笠井源）氏の研究発表“Binding, Parallelism, and Elliptic “Do So” in Japanese”、Hajime Miyamoto（宮元創）氏の研究発表“Null Objects in Japanese in Terms of Labeling Algorithm”、Siyang Xia 氏の研究発表“The Loss of Past Participle Movement in the History of English”に佳作を授与することが決定されました。審査結果は学会ウェブサイトにて公表されています。

広報委員会より

◇ J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）での *EL* オープンアクセス化に向けた作業について

EL は原則として刊行の2年後に J-STAGE にて電子ジャーナルとして公開しております。2025年7月までに *English Linguistics* 第38巻第2号まで公開が完了しています。以下の URL をご参照ください。https://www.jstage.jst.go.jp/browse/elsj/

◇ *EL* 刊行と同時の電子化について

学会ウェブサイト（www.elsj.jp）に設置されている *English Linguistics* Online に第41巻まで公開が完了しています。なお、ダウンロードは *EL* の裏表紙に記載の ID・パスワードによって可能です。以下の URL をご参照ください。https://elsj.jp/english_linguistics-eng/english-linguistics-

online/

◇ 公式 X（旧 Twitter）について

日本英語学会の公式 X（旧 Twitter）アカウントでは、公式サイトの新着情報を中心に、情報発信を行っております。アドレスは以下の URL となります。https://twitter.com/PR_ELSJ

学会賞委員会より

◇ 新人賞と学会賞（論文）の応募状況

2025年度新人賞と学会賞（論文）の応募は4月15日に締め切られました。新人賞と学会賞（論文）への応募はありませんでした。

◇ 学会賞（著書）の応募状況

4月15日に締め切られた2025年度学会賞（著書）には2件の応募がありました。会員としての会費納入条件を満たしており、また応募著書は2年以内に刊行されていることが事務局により確認されましたので、応募申請は受理されました。審査領域は、統語論1件、語用論1件です。学会賞（著書）は、1次審査と最終審査の2段階で選考され、現在、厳正に審査が行われており、最終選考結果は本年11月に開催の日本英語学会総会で報告されます。

[illegible]

言語系学会連合について

言語系学会連合の Zoom による運営委員会が、2025年6月15日(日)に開催されました。高野洋子氏(全国語学教育学会)を代表とする運営体制が確認された後、2024年度の決算と2025年度の予算が承認されました。日本英語学会関連では、本年11月に九州大学伊都キャンパスで開催される日本英語学会第43回大会で予定されている公開特別シンポジウムが、言語系学会連合との共催となります。現在のところ、2025年度はこれを含めた6件の共催事業が決定しています(さらに2件の追加の可能性あり)。また、2025年7月26日(土)にオンラインによる第15回意見交換会が開催されました。

人文社会科学系学協会における男女共同参画推進連絡会(GEAHSS)について

2024年10月1日からギースは第8期(2025年9月30日まで)の活動期間に入っています。2025年3月24日には第8期第1回運営委員会が開催され、ギースの組織・委員会編成、加盟状況、第3回人文社会科学研究者の実態調査に関する調査委員会のメンバー決定などについて報告がありました。また、この期間は、特にアーリーキャリア(初期キャリア・若手)に関する活動に力を入れており、①ライフイベントと研究者、②修学者・研究者に関する環境整備、③ハラスメント対策、④ネットワーク、の4つのテーマでワーキンググループを立ち上げる予定です。加えて、ジェンダー平等推進のためのグッド・プラクティス構想の下、加盟学協会のグッド・プラクティスの紹介が行われ、その情報が共有されています。

他にも、2025年3月16日に公開シンポジウム「アカデミアにおけるハラスメントを予防するには？」が開催されるなど、精力的に活動しています。

事務局より

◇ 会員数について

「理事会より」の欄でもお伝えしたように、2025年6月21日現在の会員総数は1124名です。

◇ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られます振込用紙で納入して下さいますようお願いいたします。コンビニでの振り込みも可能です。会費請求書が期限切れの場合は学会支援機構(elsjkaiin@asas-mail.jp)に再発行請求のご連絡をお願いいたします。機関によっては、上記振込用紙での支払いが難しい場合があるため、公費でお支払いされる方は、会費納入前に所属機関の経理担当者にご確認をお願いいたします。なお、新規入会申請者でその年度末までに会費を納入されなかった場合は会員とはみなされません。また、2年間滞納された場合は、会則第8条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意下さい。

◇ 学生会員登録(継続会員)について

学生会員登録は年度ごとの登録で、自動更新ではありません。申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますのでご注意下さい。今年度の学生(継続)会員手続きは、4月25日に締め切りました。

手続きの方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。

◇ 学生会員登録(新規入会)について

年度途中で学生会員として新規に入会される場合には、申告期間に関わらず、いつでも学生会員として登録ができます。この措置は、新規入会者のみに認められるものですのでご注意下さい。

詳しくは、学会ウェブサイトをご確認下さい。

◇ JELSへの論文投稿に関するお願い

JELSに論文を投稿される際には、日本英語学会ウェブサイトに掲載されております「JELS投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。大会運営委員会あるいは開拓社宛に投稿・連絡する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信して下さい。開拓社から送られる受領確認用の自動返信メールアドレスに送信されても受理できません。

◇ ELへの論文投稿に関するお願い

ELに論文を投稿される際には、日本英語学会ウェブサイトに掲載されております「English

Linguistics 投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。

JELSや所属機関の working papers 等に掲載された研究（の一部）を発展させて *EL* に投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、投稿者自身のこれまでの関連する研究論文の情報は必ず記載して下さい。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、三人称表現をご使用下さい。

◇ *EL* 掲載論文の再録やレポジトリへの登録に関するお願い

EL に掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、*EL* に掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にお知らせ下さい。

また、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」に *EL* に掲載された論文を登録することを希望される場合、事務局までお知らせ下さい。日本英語学会では、発行後2年以上経過した論文の登録をお認めしています。無断での再録・登録は著作権侵害となりますので、ご注意願います。

◇ JELS 掲載論文の再録・登録に関するお願い

JELS 掲載論文についても、再録および学術レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、*EL* 掲載の論文と同様に、事前に事務局までお申し出下さい（elsj-info@kaitakusha.co.jp）。なお、JELS 31以降に関しましては、再録や学術レポジトリなどへの掲載は自由となっています。

◇ *EL* 公費購入のお願い

ご所属の大学図書館や研究室で *EL* を購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていたくださく存じます。*EL* がより多くの研究者に知られるだけでなく、本学会の運営にも益するところがありますので、よろしくお願い申し上げます。

◇ 電子版投稿・審査体制に関連するお願い

研究発表応募、*EL* への投稿、および学会賞・

新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々への連絡は電子メールで行っています。所属の異動等に伴い連絡用アドレスの変更がある場合には、学会にもお知らせいただきますようお願いいたします。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常一週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようご協力下さい。

◇ 連絡先等変更のご連絡のお願い

メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会ウェブサイト「各種手続き・お問い合わせ」ページ (<https://elsj.jp/inquiries/>) の会員登録情報自己管理オンラインシステム（マイページ）にて変更手続きを行っていただくか、学会支援機構にご連絡下さい。 連絡方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。

編集後記

4月に前事務局長から受け継いだバトンを幾度となく落としそうになりながらも、どうにかこうにか、今、この編集後記を書いております。これも、会長をはじめ、関係の先生方のご助言・ご協力のおかげです。特に、前事務局長には、申し訳ないなと思いつつ、つつい相談してしまうのですが、いつも温かく対応いただいております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

5月に成城大学で開催された第18回国際春季フォーラムは、懇親会も含めて多くの方にご参加いただき、無事終えることができました。毎年のように海外から参加されている研究者の方とお話をする機会があったのですが、その方から、「この学会はとてもいい学会で、毎年来るのをとても楽しみにしている」と声をかけていただいたのが、印象的でした。磯野達也先生をはじめとする開催校の先生方、大会運営委員の先生方、旧・新事務局の先生方、それから当日アルバイトをしていた学生みなさまには、心より感謝申し上げます。

秋の第43回大会は九州大学伊都キャンパスで開催予定です。学会のウェブサイトでもお知らせしておりますが、同日に大型イベントが福岡で開催

される予定ですので、参加予定の方は早めに宿泊施設のご予約をお願いします。いつにもまして、充実したプログラムになっておりますので、ぜひ会場に足をお運びください。

連日の「危険な暑さ」で、会員の皆様も疲れがたまっているのではないかと思います。どうぞお体にはお気をつけてお過ごしください。(H.K.)

2025年9月20日発行

編集・発行 日本英語学会

代表者 渡辺 明

発行所 日本英語学会
<https://elsj.jp/>

〒112-0003

東京都文京区春日2-13-1

芳文堂ビル 6 F 開拓社内

電話 (03) 6801-5651
